問題9

アレルギー性疾患
□□□

アレルギー性疾患と抗アレルギー薬について，正しいのはどれか．

1．Ⅰ型アレルギーの症状を引き起こすのはアドレナリンである．
2．抗ロイコトリエン薬には抗アレルギー作用はない．
3．抗ヒスタミン薬の副作用には眠気や全身倦怠感がある．
4．アレルギー性疾患の治療として，何よりもまず定期的な内服を確立させるようにする．

Ⅲ-12Aj

解法の要点

花粉症やアトピー，喘息などアレルギー性疾患の患者に用いられることから，抗アレルギー薬に触れる機会も多いだろう．抗アレルギー薬の副作用などについて確認しておこう．

解　説

×1　Ⅰ型アレルギーでは，マスト細胞から放出されるヒスタミンなどのケミカルメディエーターによって，喘息や鼻炎，蕁麻疹といったアレルギー症状が引き起こされる．アドレナリンは神経伝達物質のひとつで，気管支拡張，血圧上昇などの作用がある．

×2　ロイコトリエンはヒスタミンと同様，マスト細胞から放出されるケミカルメディエーターであり，Ⅰ型アレルギー症状を引き起こす．抗ロイコトリエン薬にはロイコトリエンの受容体拮抗作用があるため，抗アレルギー作用がある．

○3　文章どおり．

×4　アレルギー性疾患の治療の基本はアレルゲンの除去と回避である．内服も大切だが，まずは掃除などの生活指導を行うべきである．

正　解　3